(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第3586304号

(P3586304)

(45)発行日　平成16年11月10日(2004.11.10)　(24)登録日　平成16年8月13日(2004.8.13)

(51)Int.Cl.[7]	F I		
A63H 13/02	A63H	13/02	D
A63H 3/02	A63H	3/02	
A63H 3/33	A63H	3/33	C
A63H 29/22	A63H	29/22	E
A63H 30/02	A63H	30/02	C

請求項の数 6　(全 10 頁)　最終頁に続く

(21)出願番号　特願平7-14980
(22)出願日　平成7年2月1日(1995.2.1)
(65)公開番号　特開平8-206366
(43)公開日　平成8年8月13日(1996.8.13)
審査請求日　平成14年1月31日(2002.1.31)

(73)特許権者　000132633
株式会社センテクリエイションズ
東京都文京区湯島３丁目３１番１号
(74)代理人　100081477
弁理士　堀　進
(72)発明者　唐沢　秀康
東京都文京区湯島３丁目３１番１号　株式会社センテクリエイションズ内
(72)発明者　北島　祥子
東京都文京区湯島３丁目３１番１号　株式会社センテクリエイションズ内

審査官　松川　直樹

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ぬいぐるみ玩具

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

少なくとも２つの手部又は足部を突設したぬいぐるみ本体と、該ぬいぐるみ本体の内部から前記手部又は足部の内部へ延びて回動自在に設けられた少なくとも２本の駆動軸と、前記ぬいぐるみ本体の内部に設けられて前記駆動軸を回動させる駆動部と、前記２つの手部又は足部の間に位置し、前記駆動軸の回動による当該手部又は足部の動きに伴って変動するように形成された付属品と、一端に該付属品を取り付け、他端は前記ぬいぐるみ本体の手部又は足部の上方に形成された首部の正面部分に取り付けられる紐とを備え、前記紐は、前記首部の正面から前記２つの手部又は足部の間までの長さを有することを特徴とするぬいぐるみ玩具。

【請求項２】

前記付属品は前記紐の一端を結び付けたボール形状体から成ることを特徴とする請求項１記載のぬいぐるみ玩具。

【請求項３】

前記紐の他端は前記首部の正面部分に着脱可能に構成されていることを特徴とする請求項１又は２記載のぬいぐるみ玩具。

【請求項４】

前記駆動部は、前記ぬいぐるみ本体の内部から前記手部又は足部の上方に形成された頭部又は他の突出部の内部へ延びて回動自在な第３の駆動軸を有し、該第３の駆動軸を前記２本の駆動軸と同時に駆動するように構成されている請求項１～３のいずれか記載のぬいぐ

るみ玩具。
【請求項５】
前記ぬいぐるみ本体の内部に、前記駆動部へ給電する電源ボックスを収納する間隙が設けられ、この間隙部分は、前記電源ボックスを前記ぬいぐるみ本体の外側から入れたり取り出したりできる出入口を有する袋状に形成されていることを特徴とする請求項１～４のいずれか記載のぬいぐるみ玩具。
【請求項６】
前記電源ボックスは電池を収納するケースから成り、該ケースは、収納した電池の極が接触する接点と、該電池から前記駆動部への給電をオン・オフする電源スイッチとを有し、前記出入口から前記接点と前記電池の極との間に電気的な絶縁体を挿入できるように構成されていることを特徴とする請求項５記載のぬいぐるみ玩具。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【産業上の利用分野】
本発明は、子犬などの愛玩動物を模した形態を有し、その手足部などを作動させる駆動部を内蔵したぬいぐるみ玩具に関する。
【０００２】
【従来の技術】
上記のようなぬいぐるみ玩具の一例として、実開平６－１９７９７号公報に記載されたものが知られている。これは、愛玩用ぬいぐるみ玩具が有する外観性（可愛らしさ等）を損なうことなく、子猫のような愛玩動物を模した動作を実現するために、ぬいぐるみ本体の頭部に自然光の変化を感知する光センサを配設し、使用者がぬいぐるみの鼻の部分に付属品の刷毛を接触させたり、手をかざしたりすると、当該光センサが光量の変化を検出し、その検出信号に応じて内部の制御部がスイッチ動作をして駆動部と音声出力部とを作動させる。これにより、ぬいぐるみの手足部を動かすと共に動物の鳴き声を発生するものである。更に、ぬいぐるみ本体の内部に配置された機械的な構成の駆動部を弾性体で包み、当該駆動部と電源部を分断することによって電源部のサイズを極力小さくし、感触の良いぬいぐるみ玩具としている。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
上記のぬいぐるみ玩具では、使用者が直接オン・オフするスイッチに代えて、光の変化で所定の動作をさせるようにしているが、その動作は鳴き声の発生と手足部の駆動に限られている。すなわち、この玩具は、単なるスイッチ操作でなく、実際の愛玩動物のように使用者の意図に応じた動作をするものであるが、使用者の目に見える（視覚的な）動作としては、上記のように手足部が駆動されるだけであり、この点では従来の玩具と変わるところはない。
【０００４】
本発明は、視覚的な動作として上記のぬいぐるみ玩具のように手足部が駆動されるだけでなく、その手足部の動作に伴って或いはその動作と共に、更に愛玩動物らしい動作ないし態度を実現する構成を備えることにより、一層愛玩性が増したぬいぐるみ玩具を提供することを目的とする。
【０００５】
【課題を解決するための手段】
本発明のぬいぐるみ玩具は、少なくとも２つの手部又は足部を突設したぬいぐるみ本体と、該ぬいぐるみ本体の内部から手部又は足部の内部へ延びて回動自在に設けられた少なくとも２本の駆動軸と、上記ぬいぐるみ本体の内部に設けられて駆動軸を回動させる駆動部と、上記２つの手部又は足部の間に位置し、駆動軸の回動による手部又は足部の動きに伴って変動するように形成された付属品と、一端に該付属品を取り付け、他端は前記ぬいぐるみ本体の手部又は足部の上方に形成された首部の正面部分に取り付けられる紐とを備え、前記紐は、前記首部の正面から前記２つの手部又は足部の間までの長さを有することを

特徴とする。

【０００６】

本発明の実施態様では、付属品は、紐の一端を結び付けたボール形状体から成る。

【０００７】

紐の他端は、ぬいぐるみ本体の首部の正面部分に着脱可能に構成されることが好ましい。

【０００８】

もう１つの実施態様では、上記駆動部は、ぬいぐるみ本体の内部から手部又は足部の上方に形成された頭部又は他の突出部の内部へ延びて回動自在な第３の駆動軸を有し、この第３の駆動軸を上記２本の駆動軸と同時に駆動するように構成される。

【０００９】

更にもう１つの実施態様では、ぬいぐるみ本体の内部に、上記駆動部へ給電する電源ボックスを収納する間隙が設けられ、この間隙部分は、電源ボックスをぬいぐるみ本体の外側から入れたり取り出したりできる出入口を有する袋状に形成される。

【００１０】

更にもう１つの実施態様では、上記電源ボックスは電池を収納するケースから成り、このケースは、収納した電池の極が接触する接点と、電池から駆動部への給電をオン・オフする電源スイッチとを有し、上記出入口から上記接点と電池の極との間に電気的な絶縁体を挿入できるように構成される。

【００１１】

【作用及び効果】

本発明においては、ぬいぐるみ本体の内部に設けられた駆動部が駆動軸を回動させることにより、ぬいぐるみ本体に突設した少なくとも２つの手部又は足部が回動する。かかる動作は、公知のぬいぐるみ玩具と同様である。しかしながら、一端に付属品を取り付けた紐を備え、この紐は、首部の正面から２つの手部又は足部の間までの長さを有するので、紐の他端を首部に装着して付属品を吊り下げるようにすれば、付属品はそのまま２つの手部又は足部の間に位置する。そして、ぬいぐるみ本体の回動する手部又は足部に挟まれた状態になると、その回動に従って付属品が回転する。これにより、子犬のような愛玩動物が骨のような物体を回したり、じゃれたりしているような動作になり、ぬいぐるみの可愛らしさが一層際立つことになる。

【００１２】

本発明の実施態様によると、ボール形状体から成る付属品に一端を結び付けた紐の他端をぬいぐるみ本体に装着することで、上記付属品がぬいぐるみ本体から離れてしまうことなく、愛玩動物がボールを回したりじゃれたりしてボールと戯れる動作を継続できると共に、付属品の紛失も防止される。

【００１３】

また、紐の他端をぬいぐるみ本体に着脱可能とすることにより、紐の他端をぬいぐるみ本体から外せば、ぬいぐるみ本体だけにすることができるのに加えて、使用者が紐を持って付属品のボール部分をぬいぐるみ本体の２つの手部又は足部の間に位置させることにより、上記のようにボールを回したりじゃれたりする動作を行わせることができる。更に、付属品それ自体を紐の付いたボール玩具として遊ぶこともできる。

【００１４】

更にもう１つの実施態様によると、駆動部が第３の駆動軸を駆動することにより、ぬいぐるみ玩具は、２つの手部又は足部の回動と同時に頭部又は尻尾のような突出部も作動させる。これにより、子犬のような愛玩動物が手足だけでなく、頭や尻尾も振る動作になるので、ぬいぐるみの可愛らしさが一層増す。

【００１５】

もう１つの実施態様によると、ぬいぐるみ本体の内部の間隙部分を形成する袋に電源ボックスを収納するので、ぬいぐるみの外観を損なわないことに加えて、その袋の出入口から電源ボックスを入れたり出したりすることができ、電池の交換等が容易になるという効果が得られる。

【００１６】
更にもう１つの実施態様によると、上記袋の出入口から電源ボックスの接点と電池の極との間に電気的な絶縁体を挿入しておくと、電源スイッチをオンにしても駆動部への給電がないので、ぬいぐるみ玩具を運搬したり飾っておく場合等に電池の消費を抑制できることに加えて、ぬいぐるみ玩具を玩具店などの店頭に飾った状態で、上記絶縁体を引き抜くだけで駆動部への給電が開始され、ぬいぐるみ玩具が動作するので、宣伝効果が上がる。
【００１７】
【実施例】
図１は、本発明の一実施例として子犬の形態に作られたぬいぐるみ玩具１の外観図である。このぬいぐるみ玩具１は、子犬の形態のぬいぐるみ本体２に柔軟な感触を与えるポリエステル製の繊維から成る弾性体（いわゆるクッション材、図示省略）を内蔵し、その内部に後述の駆動部２１（図２）を収納している。
【００１８】
ぬいぐるみ本体２は、子犬の頭を模した頭部３と、前足を模した左右の手部４Ｌ，４Ｒと、後足を模した左右の足部５Ｌ，５Ｒと、尻尾を模した尾部６とを突出させている。子犬が頭、手足あるいは尻尾を振ったり回したりするような動作を実現するため、この実施例では、頭部３と手部４Ｌ，４Ｒが、それぞれ本体２との結合部を中心として回動可能である。特に、手部４Ｌ，４Ｒは、後述のようなボール遊びを実現するため、付属品のボールを両側から挟んで所定方向に回動するように構成されている。なお、本発明によれば、ぬいぐるみ本体から突出した部分については、少なくとも、ボールを両側から挟むことができる手部又は足部が回動可能であればよい。
【００１９】
頭部３の正面には鼻７が設けられているが、この鼻７を形成する部材は、後述のように、ぬいぐるみ本体２の顔面部分の裏側に配置された支持部材２５（図２及び図７）に取り付けられ、更に、この鼻７の上方位置の内側に光センサ２４が配置されている。その詳細については、後で説明する。
【００２０】
実施例のぬいぐるみ玩具１は、ボール形状の付属品１０を備えている。この付属品１０は、回動可能な２つの手部４Ｌと４Ｒの間に位置したとき、それらの回動に伴って回転するように形成された球状の籠部１１と、この籠部１１に一端を結び付けた紐１２とから成る。籠部１１は、上下２つの半球体１１ａと１１ｂに分けられ、内部に小球１３を入れて２つの半球体１１ａ，１１ｂの円環部を接着剤で接合することにより形成されている。そして、上部の半球体１１ａの頂点位置に、紐１２の一端を結び付ける半環状の凸部１１ｃが設けられている。
【００２１】
紐１２は、ぬいぐるみ本体２の首部８の正面から２つの手部４Ｌと４Ｒの間までの距離に相当する長さを有する。そして、紐１２の他端は、ほぼ円形の結合板１４から突出した環状の凸部１５に結び付けられている。結合板１４の片側の円盤面（図１では見えない側の面）には、互いに引掛けられる鉤止片を多数突出させて配置した支持体から成るフック型ファスナー（いわゆるマジックファスナー或いはマジックテープ）１６が固着されている。
【００２２】
一方、ぬいぐるみ本体２の首部８の正面部分にも、上記フック型ファスナー１６と接合する繊維状のファスナー１７が固着されており、これに結合板１４のファスナー１６を着脱することにより、紐１２の他端がぬいぐるみ本体２の首部８に着脱可能となっている。なお、ぬいぐるみ本体２側のファスナー１７としては、外観上及び感触の点で、この実施例のように繊維状のものを用いることが好ましい。
【００２３】
図２に示すように、ぬいぐるみ本体２の内部には、電源である乾電池１９（図４）を収納する電源ボックス２０と、この電源から後述の制御回路部５０（図４）を介して必要な電

圧が供給される駆動部２１と、この駆動部２１の正面からぬいぐるみ本体２の左右の手部４Ｌ，４Ｒの内部へ延びた回動自在な２本の駆動軸２２ａ，２２ｂと、駆動部２１の正面側に設けられた音声出力部２３と、鼻７の上部内側に光センサ２４を配置するための支持部材２５とが、ぬいぐるみ本体２内に充満した前記弾性体に包囲されるようにして配置されている。

【００２４】

また、図３に示すように、ぬいぐるみ本体２において電源ボックス２０を収納する部分は、底から電源ボックス２０を入れたり取り出したりできる出入口９を有する袋状に形成されている。この出入口９は、使用者が指などで押し開かない限り、出入口９に設けた上記のようなファスナー９ａによって閉じられている。

【００２５】

駆動軸２２ａ，２２ｂは、補強のため、図５に示すように断面が十字形の棒状部材２２’で形成され、その先端部は屈曲してぬいぐるみ本体２の手部４Ｌ，４Ｒの内部に位置し、各軸の先端には円筒状のキャップ２６が装着されている。

【００２６】

再び図２において、駆動部２１は、上記２本の駆動軸２２ａ，２２ｂの他に、上方に突出した第３の駆動軸２７を有する。この第３の駆動軸２７も、断面が十字形の棒状部材で形成されている。そして、その下端部を中心として、ぬいぐるみ本体２の左右方向に揺動可能すなわち所定の角度範囲で回動自在であり、後述のように、駆動部２１により２本の駆動軸２２ａ，２２ｂと同時に駆動される。第３の駆動軸２７の上端部２７ａは、頭部３の内部に位置し、且つ補強のため、２枚の円板を上方から見て十字形に配置すると共にそれらの間を円形の平板で結合した形状に作られている。

【００２７】

更に図４に示すように、駆動部２１は、前後２つのケース部材３０ａ，３０ｂを接合して形成されるケース３０を有し、後部のケース部材３０ｂの内部に、左右の駆動軸２２ａ，２２ｂを回転させる駆動機構が収納されている。この駆動機構は、モータ３２、このモータ３２の回転出力軸に固着された小プーリ３３、この小プーリ３３の回転がベルト３４を介して伝達される大プーリ３５、この大プーリ３５と同軸で回転するピニオン３６、このピニオン３６と噛み合う大歯車３７、この大歯車と同軸で回転する小歯車３８、この小歯車と噛み合う大歯車３９、この大歯車３９と噛み合うように前記左手部４Ｌの駆動軸２２ａに設けられた左手駆動ピニオン４０、上記大歯車３７と噛み合う大歯車４１、この大歯車と同軸で回転する小歯車４２、この小歯車と噛み合う大歯車４３、及び、この大歯車４３と噛み合うように前記右手部４Ｒの駆動軸２２ｂに設けられた右手駆動ピニオン４４により、構成されている。

【００２８】

また、駆動部２１の後部ケース部材３０ｂには、第３の駆動軸２７の下端部から前後に突出した軸３１ａを回転自在に支持する軸受部３１が設けられると共に、ケース部材３０ｂの内部に、第３の駆動軸２７を揺動させる駆動機構が収納されている。この駆動機構は、上記左手駆動ピニオン４０と噛み合っている大歯車３９と同軸で、その後方に一体回転するように配置された回転板４５と、この回転板４５の背面側の偏心位置に突設した偏心ピン４６と、一端部にこの偏心ピン４６が緩く嵌合する孔を有し、他端部に上記第３の駆動軸２７の下方延長部２７ｂから前後に突出した軸２７ｃが嵌合する孔を有する揺動板４７とで、構成されている。

【００２９】

ぬいぐるみ玩具１においては、駆動部２１等の作動を制御する制御回路部５０が、後部ケース部材３０ｂの内部下方に配置される。この制御回路部５０には、これと電源ボックス２０に接続したリード線５１を介して電源が供給される。そして、制御回路部５０は、駆動部２１のモータ３２、音声出力部２３及び光センサ２４に対し、それぞれリード線５２、５３及び５４により、電気的に接続されている。なお、制御回路部５０と光センサ２４とを接続するリード線５４は、その途中に設けられた一対のコネクタ５５によって接続さ

れており、必要に応じて切り離すことができる。

【００３０】

電源ボックス２０は、電池１９（この場合、２本）を収納するケースから成り、このケースは、前述のように、電池１９の交換等のため、ぬいぐるみ本体２の底部に設けた出入口９から入れたり出したりすることができる。

【００３１】

更に、電源ボックス２０には、図６に示すように、収納した２本の電池１９の極（１本は＋極、他の１本は－極）が接触する接点板２０ａと、電池１９から制御回路部５０への給電をオン・オフする電源スイッチ２０ｂ（図２及び図４）と、図３に示すように、ぬいぐるみ本体２の出入口９から接点板２０ａと電池１９の一方の極（この場合、＋極）との間に、細長い板状の電気的絶縁体６０の上方に屈曲した先端部６０ａを挿入するためのスリット２０ｃとが設けられている。

【００３２】

従って、玩具底部の出入口９から電源ボックス２０のスリット２０ｃを通って接点板２０ａと電池１９の極との間に絶縁体６０の先端部６０ａを挿入しておくと、電源スイッチ２０ｂをオンにしても制御回路部５０への給電がないので、ぬいぐるみ玩具１を運搬したり飾っておく場合等に電池１９の消費を抑制できることに加えて、ぬいぐるみ玩具１を玩具店などの店頭に飾った状態で、絶縁体６０を引き抜くだけで制御回路部５０への通電が開始される。従って、ぬいぐるみ玩具１は、後述のように動作できるので、宣伝効果が上がる。

【００３３】

音声出力部２３は、スピーカ或いは圧電ブザーのような発音体から成り、駆動部２１の前部のケース部材３０ａに設けられた開口部の裏面側に装着される。上記制御回路部５０は、この発音体から子犬等の動物の鳴き声を模した音声を発生させるための電気信号を出力する音声合成または音声発生回路を備えている。

【００３４】

光センサ２４は、図７及び図８に示すように、ぬいぐるみ本体２の鼻７を形成する部材を装着する支持部材２５の上部に取り付けられる。詳細には、支持部材２５は上下方向に長い形で、ぬいぐるみ本体２の顔面部分の裏側に設置されるが、この支持部材２５の上部には、前面側に突出した凸部２５ａが設けられると共に、その裏面側から光センサ２４を挿入できる穴２５ｂが形成されている。この穴２５ｂに装着された光センサ２４は、ぬいぐるみ本体２の正面側から顔面部分の布地を通って穴２５ｂに入る光量を検知し、その光量の変化に応じて検知出力が変化するものである。上記制御回路部５０は、この光センサ２４からの検知信号の変化に応じて、上記駆動部２１のモータ３２及び音声出力部２３を駆動する電気信号を一定時間（その長さは、予め任意に設定できる。）出力するように構成されている。従って、使用者が鼻７の近くに手をかざすと、光センサ２４が光量の変化を検知し、駆動部２１のモータ３２が始動すると共に、音声出力部２３から動物の鳴き声が出る。モータ３２の駆動方向すなわち電源からモータへの通電の極性は、後述のように左右の駆動軸２２ａ，２２ｂをそれぞれ図４の矢印方向に回動させるように定められている。

【００３５】

この実施例の場合、鼻７は、ほぼ黒色に着色された樹脂成形部材から成る。このため、光センサ２４を鼻７の内側に配置すると光の検知が困難になるので、上記支持部材２５により、光センサ２４は鼻７の上方に配置される。

【００３６】

また、鼻７を形成している部材は後方に突出し、ぬいぐるみ本体２の顔面部分の布地に設けられた穴を通る部分を備えており、この後方突出部分は、支持部材２５の下部に設けられた孔２５ｃに挿入される。そして、挿入後は簡単に抜けないようにするため、鼻７の後方突出部分に逆止め段部７ａが設けられている。

【００３７】

図１のぬいぐるみ玩具１は、以上の構成により、次のように動作する。

【００３８】

まず、使用者が、ぬいぐるみ玩具１の鼻７の近くに手をかざすか、或いは前述の公知のぬいぐるみ玩具のように鼻７に刷毛等を接触すると、頭部３内の光センサ２４が光量の減少を検知し、その検知信号が制御回路部５０に送られる。これに応じて、制御回路部５０は、駆動部２１のモータ３２と音声出力部２３を駆動する信号を出力する。このため、駆動部２１では、モータ３２の出力軸が所定方向に回転し、その回転力が小プーリ３３からベルト３４を介して大プーリ３５に伝達されるので、この大プーリ３５と同軸のピニオン３６から大歯車３７及びこれと同軸の小歯車３８を経て、大歯車３９が回転する。これにより、左手駆動ピニオン４０を介して駆動軸２２ａが図４の矢印方向に回動され、左手部４Ｌを回動させる。一方、大歯車３７から大歯車４１及びこれと同軸の小歯車４２を経て、大歯車４３が回転する。これにより、右手駆動ピニオン４４を介して駆動軸２２ｂが図４の矢印方向に駆動され、右手部４Ｒを回動させる。

【００３９】

かくして、手部４Ｌ，４Ｒは、それぞれ本体２との結合部を中心として回動するので、付属品１０の紐１２の他端部を結び付けた結合板１４のファスナー１６を、ぬいぐるみ本体２の首部８のファスナー１７に付着させて接合しているときは、紐１２に吊り下げられた籠部１１が、２つの手部４Ｌと４Ｒの間に位置し、上記のように図４の矢印方向に（下から上へ）回動する手部４Ｌと４Ｒによって、交互に持ち上げられる。これにより、ボール状の籠部１１はランダムに回転し、ぬいぐるみ玩具１が両手（動物の前足）でボールを回したり、じゃれたりしているような動作となる。そして、この実施例では、籠部１１内の小球１３もランダムに転がるので、面白さが増大する。このとき、紐１２の他端はぬいぐるみ本体２に装着されているので、付属品１０がぬいぐるみ本体２から離れてしまうことはなく、左右の手部４Ｌ，４Ｒが回動する間、ボールを回したりじゃれたりする動作が継続する。

【００４０】

また、上記のように接合した２つのファスナーを分離することで紐１２の他端をぬいぐるみ本体２から外した場合には、使用者が紐１２を持って籠部１１をぬいぐるみ本体の２つの手部又は足部の間に位置させることで、上記と同様にボールを回したりじゃれたりする動作を行わせることができる。勿論、付属品１０それ自体をボール玩具として遊んだり、アクセサリーとして用いることもできる。

【００４１】

更に、この実施例では、モータ３２の回転出力により、左手駆動ピニオン４０と噛み合っている大歯車３９と同軸の回転板４５も回転し、その偏心ピン４６を介して揺動板４７が揺動するので、揺動板４７の他端部の孔に嵌合した軸２７ｃを備えた第３の駆動軸２７が、図４の矢印で示すように左右に揺動する。これにより、ぬいぐるみ玩具１は、２つの手部４Ｌ，４Ｒの回動と同時に頭部３が回動し、子犬のような愛玩動物が頭を振る動作を行う。

【００４２】

以上の動作は、制御回路部５０がモータ３２を駆動する信号を出力する間（予め設定した時間）継続し、その時間経過したとき、鳴き声と共に停止する。

【００４３】

上記実施例では、左右の手部４Ｌ，４Ｒと頭部３が駆動されるようになっているが、これに加えて、或いは左右の足部５Ｌ，５Ｒや尾部６を同様に駆動するように構成してもよい。特に、左右の足部５Ｌ，５Ｒを上記の手部４Ｌ，４Ｒのように回動させる場合には、その間にボール形状の付属品を挟むようにすれば、上記と同様のボール遊びが実現される。なお、付属品は、ボール形状のものに限らず、例えば子犬がじゃれる骨の形など、ぬいぐるみ本体の形態に応じて任意に定められる形状でよい。

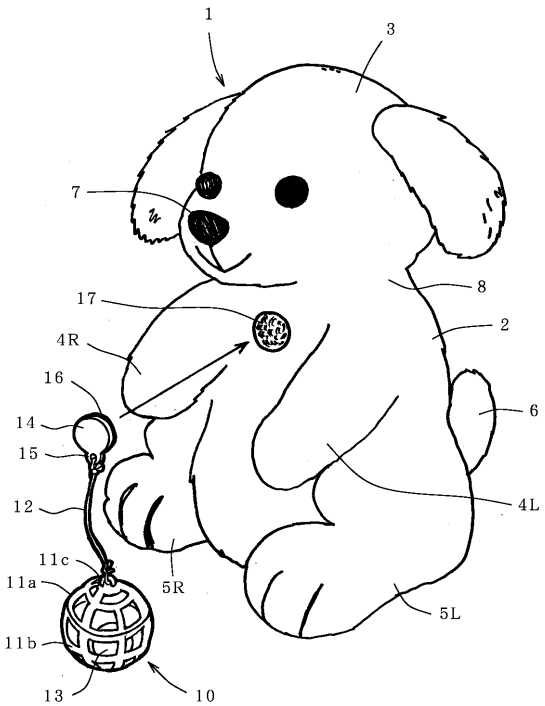
【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の実施例のぬいぐるみ玩具の外観図。

【図２】図１のぬいぐるみ玩具の内部に収納されている部材を示す図。
【図３】図１のぬいぐるみ玩具の下方から見た斜視図。
【図４】図２の駆動部の内部構成を示す図。
【図５】図１のぬいぐるみ玩具の駆動軸の形状を示す図。
【図６】玩具の電源ボックスからの給電を停止する手段を示す図。
【図７】図１のぬいぐるみ玩具の鼻部と光センサの支持部材を示す図。
【図８】図７の支持部材に鼻部と光センサを取り付けた状態を示す部分断面図。
【符号の説明】
１…ぬいぐるみ玩具、２…ぬいぐるみ本体、３…頭部、４Ｌ，４Ｒ…手部、５Ｌ．５Ｒ…足部、６…尾部、７…鼻、８…首部、９…出入口、１０…付属品、１１…籠部、１２…紐、１３…小球、１４…結合板、１５…凸部、１６，１７…ファスナー、１９…電池、２０…電源ボックス、２１…駆動部、２２ａ，２２ｂ…駆動軸、２３…音声出力部、２４…光センサ、２５…支持部材、２６…キャップ、２７…第３の駆動軸、３０…ケース、３１…軸受部、５０…制御回路部、６０…電気的絶縁体。

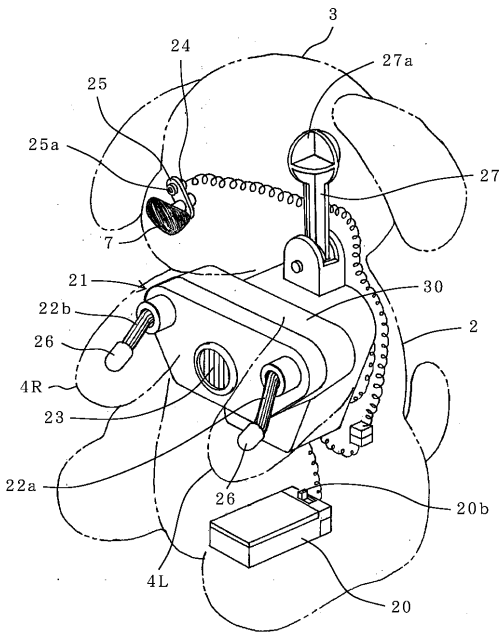
【図１】

FIG.1



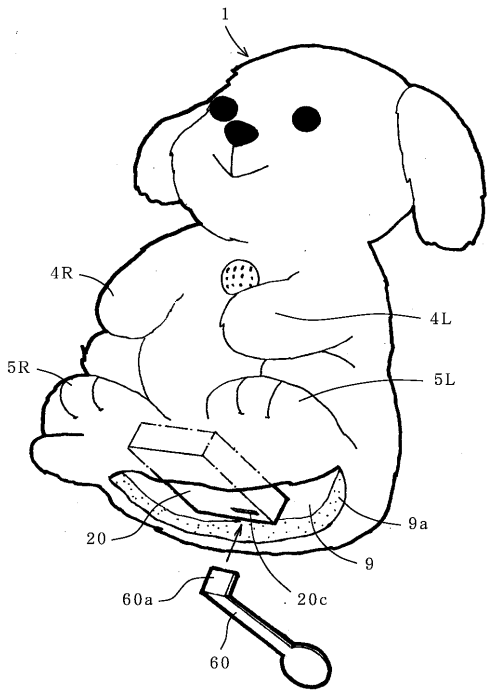
【図２】

FIG.2



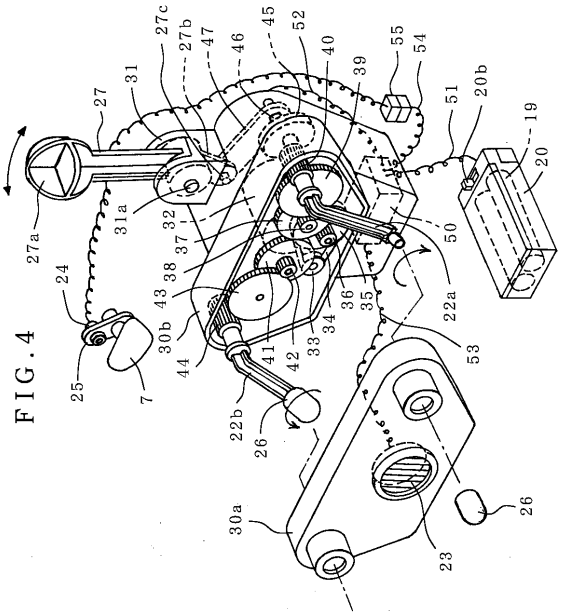
【図３】

FIG.3



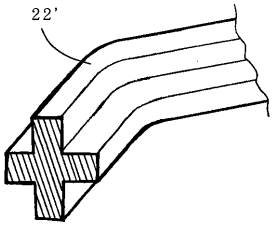
【図４】

FIG.4



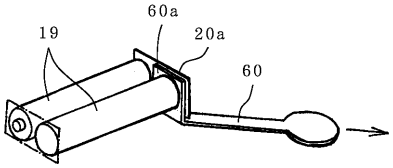
【図５】

FIG.5



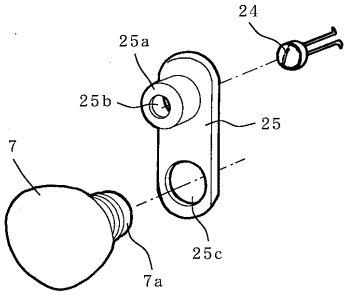
【図６】

FIG.6



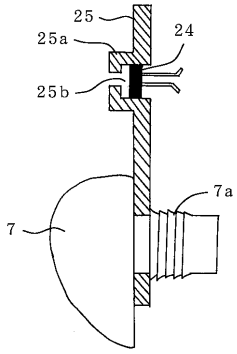
【図７】

FIG.7



【図８】

FIG.8



フロントページの続き

(51)Int.Cl.[7]		FI		
Ａ６３Ｈ	31/08	Ａ６３Ｈ	31/08	Ｅ
Ｇ１０Ｋ	15/04	Ｇ１０Ｋ	15/04	３０２Ｆ

(56)参考文献 特開昭６２－２３６５８２（ＪＰ，Ａ）
実公昭２６－０１４０２６（ＪＰ，Ｙ１）
実開平０５－０８６３９３（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)

A63H 13/02
A63H 3/02
A63H 3/33
A63H 29/22
A63H 30/02
A63H 31/08
G10K 15/04 302